タバコ・モザイク・ウイルス（ＴＭＶ）
タバコ系，トマト系，トウガラシ系 抵抗性

ピーマン　みはた

みはた１号

みはた２号

みはた３号

ＴＭＶ抵抗性品種栽培上の注意点　３品種ともTMVに対する抵抗性が過敏反応性（感染部がえ死して全身感染を阻止する）であり，次の点を厳守する。

①前作にTMVの発生が多かった圃場に，初めて導入する場合は臭化メチル剤で土壌消毒し，ウイルス密度を下げて栽培する。
②TMV発生圃場で，罹病性品種を同時に栽培する場合は，栽培中に罹病性品種からのウイルス感染により，えそが発生することがあるので，抵抗性品種から管理し感染を防止する。
③前作にTMVの発生が多かった圃場では，苗立枯病や疫病の発生部及び作業中の傷口からウイルスが浸入すると，上葉の葉脈や果実にえそが発生することがあるので，障害や他の病害の発生防止にも心がける。
④弱毒ウイルスの接種は，えその発生や落葉の原因となるので，行わない。
⑤ハウスの蒸し込みによる高温で抵抗性を失い，えそやモザイクが発生することがあるので，30℃以上にしないよう換気に注意する。
⑥高温期に定植する栽培では，TMVに感染すると全身にえそが発生する危険性があるので，地・気温の上昇を抑え，若苗定植は行わない。
⑦移植，定植，吊り上げ，整枝等の作業前には，スキムミルク1,000倍液を葉面散布して，抵抗性品種へのウイルス感染を防ぐ。

本品

公益財団法人　園芸植物育種研究所

〒270-2221　千葉県松戸市紙敷 2-5-1　TEL.047-387-3827　FAX.047-386-1455

ピーマン「みはた1号」，「みはた2号」，「みはた3号」

〈特性と栽培方法〉

育成経過

ピーマン品種の多くは，タバコ・モザイク・ウイルス（TMV）タバコ系及びトマト系に抵抗性であるが，1978年以来この抵抗性品種にTMV－トウガラシ系によるモザイク症状が発生している。

そこで，青枯病に強い当所育成の保存系統「昌介」選抜系2系（1，3号）及び「昌介型」選抜系（2号）を母親とし，TMV－トウガラシ系抵抗性は「DORIA」(bruinsma) に，果形安定，果色，多収性は「にしき」後代に求めて育成した抵抗性系統を父親とした$F_1$3組合せを選定して，92年「みはた1号」，「みはた2号」を，93年「みはた3号」を命名発表した。

品種特性

（対照品種「新さきがけみどり2号」）

青枯病に強く，TMV－タバコ系，トマト系及びトウガラシ系に抵抗性である。

「新さきがけみどり2号」と比べて，早生で下分枝から着果はきわめて良いが，草勢はやや弱い。

開花苗定植では早期の着果で生育が鈍ることがあるので，若苗定植や下分枝摘果により初期生育を促進する。果実はそろい良く，肩太く，尻はまとまり，果色は同等である。

「みはた1号」　は，小葉，短節間で花数多く，果実はやや小果，短形であり，ややアントシアンが発生することがある。収量の山谷がややでやすい。肥沃土での栽培に適する。ハウス冬春栽培に適し，露地栽培には適さない。

「みはた2号」　は，葉は同等，やや短節間で花数，果実の大きさは同等，細長果や尻尖り果は少ない。収穫の回転が良く，収量の個人差が少ない。ハウス冬春栽培に適し，雨よけ栽培にも適する。

「みはた3号」　は，換気による湿度低下で，果実が短くなりやすい条件下でも，1号と比べてやや長果であり，短果によるB級品が少なく，他の特性は1号と同等である。

栽培の要点

■定植株数　株間40～50cm，条間150～180cm，10アール株数1,100～1,600株

■播種　6～7cmの条間とする。播種後10～15日で移植する場合は，種子が重ならないくらいの間隔に条播きする。本葉2枚くらいで移植する場合は，2～3cm間隔に点播する。覆土，灌水後，発芽ぞろい緑化まで新聞紙をかけておく。発芽ぞろいまで30℃に保つ。

■育苗　28℃の地温を保てば，約半月早く開花となり育苗期間を短縮できる。その場合は定植日にあわせて播種日を遅くする。定植前7日間は順化を行う。

■定植　着果が良く，やや草勢が弱いので，初期の株作りのため，本葉5～6枚から開花10日前くらいの若苗定植が良い。ずらし床の確保ができない場合は，苗ずらしの適期が定植の適期と考えても良い。

苗立枯病や疫病の発生を防ぐため，鉢土が1～2cm出るくらいの浅植えとし，仮支柱を立てる。

■管理

①吊り上げ，整枝等の作業前にスキムミルク1,000倍液を葉面散布してウイルス感染を防ぐ。導入1作目及びTMV抵抗性をもたない品種を同時に栽培している場合は特に注意する。

②主枝2～4本に仕立て，糸で吊る。

③1～3節は摘果して，草勢の確保を優先する。

④垂れ枝の果実は，やや短くなり凹みも多くなるので，側枝の収穫時に，ふところ枝は2節，通路側の枝は3節に切り戻す。

⑤空気湿度が低くなると，果実がやや短くなり，肥大が遅れて硬くなるので，通路に散水して湿度を高める。

⑥開花後の花弁が通路に目だつ時は，約20日後に収穫のピークがくるので，追肥灌水して温湿度を保つ。

■収穫　M中心の適期収穫を行い，草勢を維持する。